

[昭和女子大学]

泉は、泉にして泉にあらず

—昭和之泉—

比嘉 秀之 学校法人昭和女子大学 総務部部长代理 渉外担当

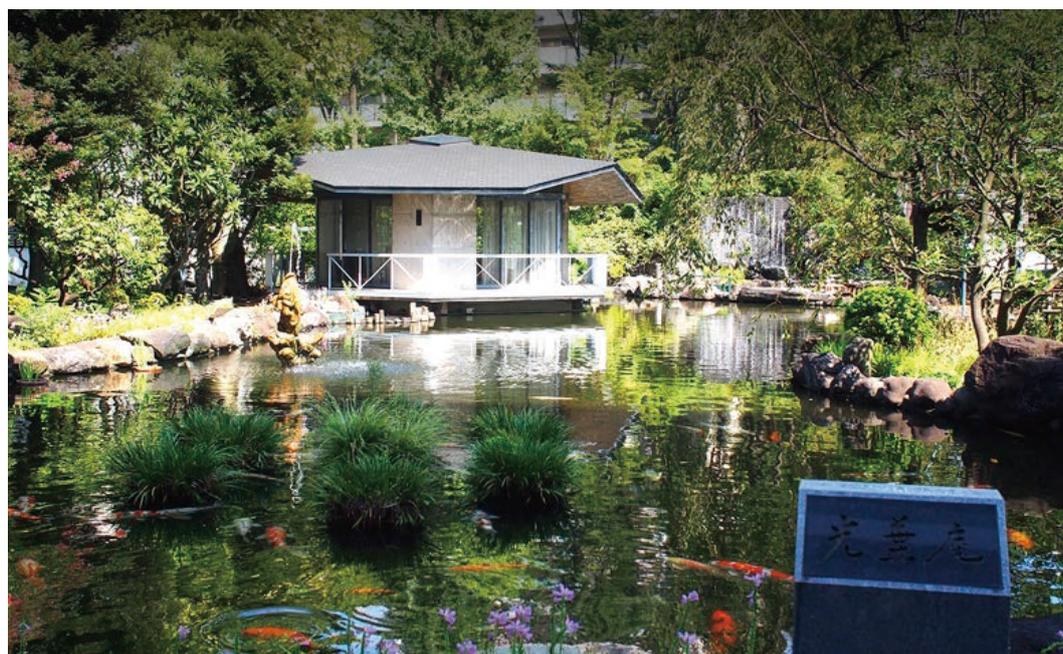
1 緑豊かなキャンパス

創立103年を迎えた昭和女子大学は東急田園都市線で渋谷駅から2駅の三軒茶屋駅徒歩7分、国道246号線に面し、都心へのアクセスも良好な世田谷区太子堂にキャンパスを構える。構内には60本ほどの保存樹があり、正門通りの並木を抜けると左手には、「昭和之泉」を中心とする日本庭園が広がる。こども園から大学院までがワンキャンパスに集う緑豊かな学園である。

2 憩いの場

昭和之泉は、本学創立70周年を記念して整備された日本庭園だ。自然の湧き水を利用した滝が流れるほか、広さ約500㎡の

泉は地下水を浄水した水で満たされ、中では150匹ほどの鯉が飼育されている。泉の周辺には樹齢70年を超える大木や中低木の木々、下草が生い茂り、毎年春から初



豊かな水をたたえる昭和之泉



水辺でくつろぐカルガモの親子

夏にかけて、カルガモが営巣する貴重な場所にもなっている。カルガモのヒナがよちよちと親鳥を追いかけるように行進し、泉にダイビングする光景を、昭和学園の学生・生徒・児童・教職員、時には泉に隣接する光葉博物館を訪れた人たちも一緒になって温かく見守っている。入構には制限を設けているが、昭和之泉は地域交流の場、憩いの場として一般にも開放しており、訪れる人は絶えない。

3 学びの場

昭和之泉は単に景観をめぐる憩いの場としてだけでなく、自然の営みを体験できる学びの場でもある。春は満開の桜の下でお弁当を広げたり、梅の果実を収穫したり。夏

は昆虫採集や、果実がオレンジ色に色づいて柔らかくなったビワやザクロ、プールのシーズンだ。秋が深まると紅葉が見頃となる。完熟した花梨を収穫したり、学寮研修で収穫した芋で焼き芋を作ったりと、都内でも四季を身近に感じることができる。また、泉は幼魚から成魚に成長する鯉や、そこに集まる野鳥の観察場にもなっている。泉の魚を狙うアオサギや、カモのヒナを狙うカラスなどの大型の鳥から、小鳩やオナガ、野生化したワカケホンセイインコ、ヒヨドリ、ツバメ、スズメやメジロ、シジュウカラ等多くの野鳥が生息する。昭和之泉は、昆虫を食す小鳥、その小鳥を狙う大型の鳥、はたまたトカゲや小動物を狙うハクビシンまで、食物連鎖を垣間見る自然を学ぶ場でもあるのだ。

4 命を繋ぐ

多くの水を蓄えるこの泉は、災害時には生活用水供給源となる。そのため学園では停電時にも使用できる手漕ぎポンプを準備し、万一の場合にも備えている。泉は四季をめぐる自然を体感し、緊急時には命を繋ぐ貴重な水源となっている。

「泉は、泉にして泉にあらず」である。

[関西学院大学]

水辺を歩く

—関西学院大学と六甲の清流—

赤江 達也 関西学院大学社会学部教授 学院史編纂室長

1 時計台と中央芝生を ふちどる水路

関西学院大学の西宮上ヶ原キャンパスは、海と山に挟まれた阪神間に位置している。その地形ゆえに、大阪と神戸からほど近い場所にありながら、六甲山系の清流がキャンパスの特色となっている。

ウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計した西宮上ヶ原キャンパスは、時計台と中央芝生によって知られている。中央には芝生の空間が広がり、スパニッシュ・ミッション・スタイルの建築が並んでいる。

そのキャンパスにうるおいを与えているのが、六甲の清流である。時計台の向こうに見える甲山かふとやまから流れてくる澄んだ水が、キャンパス内に張りめぐらされた石張

りの水路を流れている。

2 キャンパスのなかの池

関西学院は1889年に神戸市郊外の原田の森（現在の神戸市灘区、王子動物園周辺）で創設され、1929年に現在の西宮上ヶ原キャンパスへと移転している。

上ヶ原台地は、もとは17世紀半ばに開発された新田であり、甲山周辺の源流からの用水路とため池が農業用に整備されてきた。現在もキャンパスのなかを2つの用水溝が通っており、その水がため池を満たしている。

上ヶ原移転後の初期には、キャンパス内には少なくとも4つの池が存在していた。そのうち2つの池はすでに姿を消している。まず、時計台の背後（西側）の池が埋め立てられ、1960年に社会学部校舎、1963年に図書館新館が建てられている。また、上ヶ原移転時の配置図には英語で「スイミング・プール」と記された池がみられるが、その場所には1959年に体育館が建てられている。

3 新月池から日本庭園池泉へ

現在のキャンパスには、正門近くの新月池と、日本庭園



新月池と水面に映る大学院2号館

池泉という2つの池がある。西宮上ヶ原キャンパスの正門から入って、中央芝生の手前で左に向かうと、すぐ左側にみえてくるのが新月池である。

新月池とその周辺は、2004年に大規模な整備が行われ、水と緑の豊かな空間が形成されている。春は桜の見どころでもある。

新月池から西に少し歩くと、もう1つの池がある。日本庭園の池泉で、亀島が浮かび、サクラ、カエデ、クロマツなどが取り囲んでいる。阪神・淡路大震災の翌1996年には、池に張りだすデッキと、庭園内を回遊できる遊歩道が整備された。池のそばには四阿あふまやとベンチが設置されており、キャンパスが賑わっているときでも、静かな場所である。

さらに日本庭園から西にでると、大学図書館の南側にはサンクンガーデンがあり、清流の水路が続いている。図書館と時計台の北側にまわると、社会学部と文学部の間にも水路で囲まれた公園のような空間がある。

キャンパスの魅力のひとつは、こうした水辺の空間である。キャンパスを流れる水路をたどり、池畔のベンチで水面をながめる時間は、キャンパスライフをより豊かなものにしてくれるはずである。

[東京経済大学]

人と自然の営みが織りなす 豊かな水辺空間

尾崎 寛直 東京経済大学経済学部教授

JR国分寺駅を南口に降りると、まずは下り坂で線路の高さよりだいぶ下り、そしてふたたび線路の高さまで上り坂を歩いて東京経済大学(東経大)の正門に着く、というなんとも不思議な道筋を辿ることを経験した人もいるだろう。連日学生たちが歩く通学路がこのような地形であるのは、じつは「国分寺崖線^{がいせん}」といわれる河岸段丘を縦走しながら、「はけ」と呼ばれる入り組んだ窪地に沿って歩いてきたからだ。

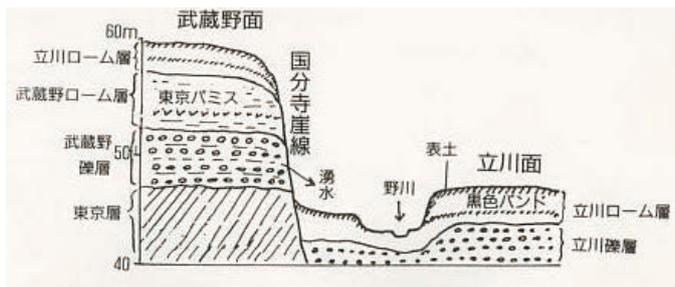
国分寺崖線をつくったのは太古の多摩川(一級河川)であり、多摩川が削って形成された最大20mの高低差に及ぶ段丘は、東京西部の立川から大田区田園調布付近まで続く。今や宅地化でこの高低差の意味を感じられ

るエリアは少なくなったが、もともと崖斜面は豊かな緑地帯を蓄えていた。そんな国分寺崖線の一角が、国分寺の東経大メインキャンパス内で保全されている。

しかるに国分寺キャンパスは、国分寺崖線を挟む南北の台地上に位置し、北側の校舎などの建物を配置している「武蔵野面」と、崖斜面及び

崖線下の「立川面」にある緑地帯に分けられる(図参照)。この緑地帯は学生たちが愛称していた「東経の森」と名付けられ、多種多様な動植物の宝庫となっている。

大岡昇平の小説『武蔵野夫人』(※のちに溝口健二監督によって映画化)にも描かれたこの地域の「はけ」は、東経の森の中にも見られ、そこから浸み出る豊かな湧き水によって水面を湛えている。かつてその湧き水を使ってワサビ栽培もされていたと聞く水辺は、1966年に学内の日本庭園として整備され、のちに当時の学長の名をとって「新



国分寺崖線の断面図

(出典)堀田進「多摩の地形と地質」東京経済大学多摩学研究会編(1991)『多摩学のすすめ(1)』けやき出版、238頁

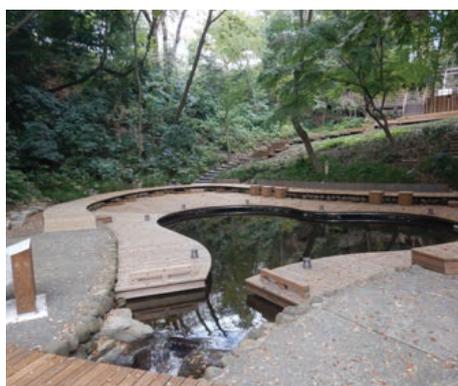
次郎池」と名付けられて今日に至る。2003年には「東京の名湧水57選」に選ばれた実績もある。

新次郎池周辺は、高木のケヤキ、ミズキ、シラカシ、スギなどの針広混交林が囲んで涼しい日陰をつくり、水辺を好む植物の群落とともに、都会を忘れさせてくれる貴重なオアシスとなっている。大学の周辺四方は住宅地に囲まれていることを考えれば、新次郎池を含む東経の森は、地元住民にとっても憩いの場、自然観察の場として親しまれる資源であり、大学と地域がつながる「縁結び」ゾーンともいえる。

しかしながら、新次郎池も整備されてから50年以上が経過し、周辺の散策道も老朽化が激しく、宅地化の進行で湧水も徐々に減少して、現在の学生たちにとってあまり魅力的な環境とはいいがたい状況にあった。そこで、東経大創立120周年（2020年）事業のひとつとして新次郎池周辺整備と持続的な湧水確保の計画が位置づけられ、最新の造園技術を駆使して、自然の景観や生態系を損ねない範囲での大幅リニューアルが実行されたのだ。

本事業では、来訪者の「歩く楽しさ・快適性」と「安全性」にとくに留意するとともに、湧水・池周りの親水化によって、訪れる人はウッドデッキのベンチに座ってゆったり池

を眺めて、「湧水ポイント」で直接水に触れることもできる。池そのものの持続可能性という課題にも挑戦して、超音波測定装置を使ったキャンパス内の「水みち」の探索、地下水の湧出ポイントと池の深さのミスマッチの改善、護岸からの漏水の防止など数々の工夫を凝らし、豊かな湧水と満水の池の風景を取り戻した。



新次郎池とウッドデッキの親水空間



池につながるウッド調階段と見晴らしデッキ

このようにして今日的に生まれ変わった池と親水空間は、野鳥たちにも憩いの場になっている。このウッドデッキに座れば、野鳥たちのさえずりや大合唱、湧き水の音色、木々を通る風の柔らかさがおのずと感じ取れるはず。訪れる人の五感を心地よくくすぐる癒しの空間は、きっとここが都会のキャンパスの中だということすら忘れさせてくれるだろう。